

■矢口新の教育思想と実践の研究：活動報告－水海道⑤

水海道小のフィルムライブラリー、その後の展開

矢口新の教育実践研究班は、昨年3月に水海道小学校（常総市）の3回目の資料調査を実施したが、その際、前の調査でその存在が判明した約500本のフィルムライブラリーの内容調査を並行して行った。同校のフィルムライブラリーは、戦後初期から視聴覚教育の指導者であった矢口新に共鳴する猪瀬嘉造校長のリーダーシップにより推進され、地域の学校が連携する活動に発展した。猪瀬校長はその活動で第1回読売教育賞（1952年）を受賞している。

利用記録など貴重な資料も残されており、研究班はライブラリーの保存と活用を常総市教育委員会に提案したが、残念ながら50～60年前のフィルム群は劣化が進み、そのままでは保存が難しいということで、昨年11月同市石毛地区のライブラリーと合わせて記録映画保存センターへ寄託された。

同センターではフィルムの保存処置をする一方、他に存在しない作品についてはDVD化を行い、活用への道も探っている。今年3月には、記録映画保存センターは東京大学大学院情報学環と共催で、見つかった社会科教材映画から戦後日本の民主化に社会科が果たした役割を探るワークショップ（右掲）を開催。水海道小における子どもたちの保健活動を描いた「はえのいない町」（指導・監修/矢口新）等が上映された。

同映画で描いているのは、子どもたちの主体的な活動と、その過程で育つ科学的視点と社会的な目である。また矢口新は、映画を社会の現実を分析的に捉える目を養う教材と位置付け、授業での使い方を具体的に提案している。

残念ながらワークショップでは、そうした問題に迫れなかった。総合学習の原点ともなる学習活動や、映像資料の活用のあり方は今に生きるテーマ。研究班としては、その実態を明らかにすることを今後の課題としていきたいと考えている。

（2011/3 榊 正昭）



東京大学記録映画アーカイブ・プロジェクト 第5回ワークショップ

社会科映画と日本の民主化 －発見された常総市コレクション－

日時：2011年3月6日（日）14:00-18:00

場所：東京大学本郷キャンパス・福武ホール

主催：東京大学大学院情報学環/記録映画保存センター

プログラム

●映画上映

『わが街の出来事』（監督:岩下正美 1950年）

『はえのいない町』（脚本:羽仁進 監督:村治夫 1950年）

『伝染病とのたたかい』（都映画社 1950年）

『町と下水』（脚本・演出:羽仁進 1952年）

●制作者が語る 藤瀬季彦（カメラマン・元岩波映画製作所社長）

●報告～全体討論

吉見俊哉（東京大学） 中村秀之（立教大学）、藤瀬季彦

グレゴリー・フルークフェルダー（コロンビア大学）

総司会 丹羽美之（東京大学）